

科目名	発達アセスメント			担当教員	野村 香代	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED4SSR413
期待される学修成果	教科教育 子ども理解					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験	臨床心理士、公認心理師					
実務経験を生かした授業内容	医療機関での勤務経験に基づき、学校現場で求められる能力や行動アセスメントツールを取り上げ、検査内容や方法を説明する。					
到達目標及びテーマ	1.アセスメントの意義と倫理を理解し、児童・生徒の課題に応じた適切なアセスメントツールを選択・実施するための基礎知識を習得する。 2.各種発達検査・知能検査や適応行動、読み書き等の評価結果を分析し、クライアントの認知・心理特性を的確に捉える力を養う。 3.アセスメント結果を「個別の支援計画」や「個別の指導計画」へと具体的に反映させ、教育現場での多職種連携や保護者支援に活かすための技法を習得する。					
授業の概要	本講義では、特別支援教育の専門家として不可欠な「発達アセスメント」の理論と実践を習得する。アセスメントの定義や実施上の留意点を概説した上で、知能（WISC-V、田中ビネーV）、認知機能（KABC-II）、適応行動、感覚、読み書きといった多角的な評価手法を学習する。単に数値を算出するだけでなく、結果から児童・生徒の困難さの背景を読み解き、いかに具体的な教育的支援（合理的配慮や学習指導）に繋げていくかを重視する。将来、学校現場等において、アセスメントに基づいた「個別の指導計画」の作成や、チーム支援の核として機能するための基礎スキルの獲得を目指す。【デジタル技術利用 該当番号：①、③】					

授業計画	
第1回	アセスメントとは
第2回	アセスメントを行う前に
第3回	発達検査：遠城寺式・乳幼児分析的発達検査表、新版K式発達検査とは
第4回	知能検査：田中ビネー知能検査V
第5回	知能検査：WISC-V① 検査の概要
第6回	知能検査：WISC-V② 検査実施
第7回	知能検査：WISC-V③ 結果の処理
第8回	知能検査：WISC-V④結果の報告
第9回	認知検査：KABC-II①検査概要
第10回	認知検査：KABC-II②結果の処理と報告
第11回	適応行動の評価
第12回	感覚に関する評価
第13回	読み書きに関する評価
第14回	学校で行われるアセスメント
第15回	講義のまとめと最終レポート

事前学修	2時間	授業で取り上げる検査内容について、事前に配布する検査用紙・検査実施テキストを読み込んでおくこと。
事後学修	2時間	授業内で行った検査の意義や方法を整理し、自分で実施できるように復習しておくこと。
フィードバックの方法	振り返りシート、レポートは、必要に応じて朱書きをして授業内に返却し、質問事項に関しては講義で解説を加える。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	40%	アセスメントの基礎知識や実施に関するレポート（40%）

上記以外の試験・平常点評価	60%	①講義後の振り返りシート(30%)、②ペアワークへの取り組み(30%)
定期試験	0%	実施しない
補足事項	特別支援学校での教育実習期間は休講とし、別日に補講を行う。その日程は初回に決定する。	

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし	なし	なし	なし	なし
参考資料	検査に必要な実施テキスト等は、講義前に貸し出す。			